

クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより



第16号 (H27.12月発行)

今月のトピックス

①焼却炉設備の点検・修繕を行いました。

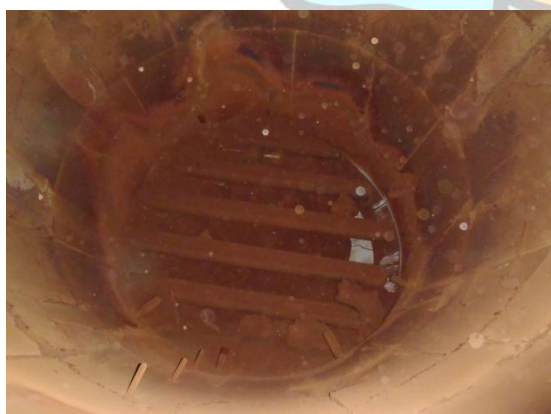
焼却炉設備の定期修繕を行いました。焼却炉は脱水した汚泥（脱水ケーキといいます）を高温で燃焼し灰にします。当所の焼却炉は流動床式焼却炉という方式で、熱した熱い砂と脱水ケーキを混ぜて約850℃で燃やしています。処理能力が1日35トンの焼却炉が2基設置されており、交互にほぼ365日24時間稼働しています。常時、高温になる炉の中や周辺機器なども劣化しやすい設備です。そのため定期的に部品交換や状態の悪い場所を修繕しています。



流動床式焼却炉



始動用バーナーの点検・交換作業



焼却炉内部（砂を抜いた状態）



各種配管の点検作業

②防災訓練を実施しました。

12月14日に豊田終末処理場で防災訓練を実施しました。諏訪地域で震度6弱の地震が発生したとの想定で訓練を行い、処理場施設や管路施設の巡視と故障・損傷に伴う対応について確認しました。突然の災害の際の初期対応や必要な機材等について、職員相互の情報を共有するよい機会となりました。万が一の時は迅速かつ的確に対応できるよう、今後も訓練を続けていきます。



災害対策本部の様子



設備の損傷等を点検する様子

もっと知りたいクリーンレイク諏訪辞典 ～第4回～

“汚れ”って何だろう？④

透視度、BOD、COD…と汚れの指標について色々話してきましたが、今回はSSについてお話しします。SSといわれても多くの方はなじみのない言葉だと思います。これは下水処理場を含め水質の評価でよく使われる用語で、水中に懸濁している固形物のことを指します。英語の **Suspended Solids** の頭文字をとったものです。処理場に入ってくる下水（写真・左）を見ると茶色く濁って見えますが、これは下水に細かい固形物が混ざっていることも原因です。SSは水1Lあたりの固形物の量で表し、下水処理における維持管理の指標のひとつとしています。当処理場に流入してくる下水のSSは平均100mg/Lくらいですが、放流する水は1mg/L以下となり、見た目の違いはもちろん、SSの値からもきれいになっていることがわかります。



（左）処理場に入ってきた下水

（右）処理場から放流する水